

広島フラッグセレモニーにご参加の皆様へ

私は「イエズス会長東修道院」神父のバリカマカル・アレキサンダーと申します。私は国籍、言語、民族、宗教宗派を超えて人類が平和に幸せに生きていくことを体験したいという夢を実現するために日本に参りました。

一人一人の心の平穏から平和な世界を築こうと、宗教宗派を超えて祈る開かれた場としてこの「長束黙想の家」を地域に広く紹介しています。

被爆地広島で働くことは特別な意味があると感じています。

「広島に広げよう、そして広島から広げよう、愛の文明、平和の文化、生命の輝きを、希望の光を」

「人類家族の世界で皆兄妹姉妹だ。それぞれが足と手と目のように一つの体の一部分だ」

「自然や人、人間の内なる神性な部分との関係を大切に正しく生きることが平和につながる」

このような思いを持って黙想の家を訪れた方々と心を合わせ祈りを捧げています。

美しい色とりどりの世界の国旗を使って、すべての国々を一国一国平等に大切に祈るフラッグセレモニーは、その私の思いと同じです。先月7月30日に初めて黙想の家で正式なフラッグセレモニーを行いました。国旗を掲げることで具体的に世界各国に対する尊敬の念と平和への意識が高まり、初めて参加した人たちも皆が心の壁を超え、心をひとつに祈ることが出来ました。その一体感によって初めて参加された方々も素晴らしい体験だったと感動していました。

世界中の人々が、お互いを知ることから始めて、平和という同じ目的のもとに違いを乗り越えてつながり、多様性が豊かさと感じられる地球家族になることを心から願っています。本日のフラッグセレモニーのご成功をお祈りいたします。

世界人類が平和でありますように

イエズス会長東黙想の家 神父バリカマカル・アレキサンダー